

中島邦雄* キク科の新外来品タワダギク (新称)

Kunio NAKAJIMA : A new introduced shrub, *Pluchea odorata* (LINN.)
CASS. in Okinawa.

最近、沖縄では終戦直後からこの方、帰化植物の存在が注意されていながらも未検定のものゝ次第に判明されてきた。こゝに報告する *Pluchea* (ヒイラギギク) 属の一種は筆者が1966年5月下旬、嘉手納空軍飛行場近辺で帰化植物採集の際、嘉手納村字兼久、1号線路傍の斜地から得た。その後ヤナギバモクマオ *Boehmeria densiflora* HAYATA, エダウチャガラ *Eulophia ramosa* HAYATA, ユウゲシヨウ *Oenothera rosea* AIT., ルビーガヤ *Rhynchelytrum repens* C. E. HUBB., タチクサネム *Desmanthus virgatus* WILLD., ハイクサネム *Desmanthus ilinoensis* (MICHX.) MACM., エダウチクサネム *Aeschynomene americana* LINN., タチアワユキセンダングサ *Bidens pilosa* L. var. *radiata* form. *radiata* SCHERFF. およびハイアワユキセンダングサ *Bidens pilosa* L. var. *radiata* f. *decumbens*. SCHERFF. を調査の時同場所に立寄り沢岷安喜君も指摘したが花を見ぬまゝその木は消えてしまった。その時キク科であることだけが分っていたが、幸い多和田真淳氏より別の生育場所をご教示いただいたので早速同地を訪ずれたら開花末期ではあったが、幸い精検することができた。文献により英名 Fragrant Pluchea とか Shrubby Fleabane と呼ばれ米 Florida から Jamaica (type locality) および南米北部にまたがり分布し、Hawaii の Oahu 島に帰化の報告 (1932年) のある *Pluchea odorata* (LINN.) CASS. であることを知った。種名の示す如く、花は芳香を放つ。

今一つ、沖縄から知られているヒイラギギク *Pluchea indica* LESS. (沖縄本島那覇市、読谷村<ヨミタンソン>および恩納村<オンナソン>に帰化している) に比較して、茎は太く、葉は長楕円形、花はより大きい。次に *Plu. odorata* の特徴を記載しておきたい。

多年生灌木、高さ 0.7~2.3 米。若枝は白綿毛を密布し古くなると脱落、木質となりよく分岐する。葉は長楕円形か皮針形、縁に低鋸歯が散在無毛、上面有毛、下面帯白色、白綿毛密布、鋭頭か鋭尖頭、長さ 6~13cm、幅 2~5 cm、狭脚、柄長さ 1~2 cm。頭状花多数、卵白色か淡桃色、花柄白綿毛密布し数回分岐、小花柄多数分岐、通常大きな繖房花序をなしその径が15cmにもなる。総苞、長さ 4~6 mm、卵形か皮針形、果実に纖状軟毛がある。花托、直径 3 mm。雌蕊のみある小筒花は非常に多く、長さ約 5 mm、3 鋸歯。両性小筒花には雄性が約15、長さ約 7 mm、5 鋸歯。瘦果、長さ約 1 mm、暗色。冠毛長さ約 5 mm、帯白桃色。花期 4—5 (—7) 月。生育期に若枝を挿すとよく活着する。

* 明治山植物園, Meiji-yama Botanical Garden. Kube, Okinawa.

和名がまだないところから発見者多和田真淳氏に献名し、**タウダギク**（新称）としたい。

なお同氏によれば恩納村山田の東方、護佐丸の墓地に行く手前に本種が帰化しているが、終戦後から見られるとのことである。たぶん米軍が進駐した際撒布されたものと推測



される。今回は多和田氏のご教示により1968年5月17日、同地より採集した。こゝに改めて種々助言下さった多和田氏はじめ沢岷君に謝意を表する。



なお、遠からず自生地が開拓される恐れがあるので、数本を明治山植物園および北部農林高等学校園原植物園に移植しておいた。
